【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名	島 根 県

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	出 雲 市 立 第 二 中 学 校					
学　年	１年	２年	３年	特殊学級	計	教員数
学級数	５	５	５	３	１８	３５
生徒数	１８４	１７９	１９０	３	５５５	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

「広い視野と実践力を持ち、主体的に学ぼうとする生徒の育成」
ー個に応じた指導と評価の工夫をとおしてー

２．研究内容と方法

(1)　実施学年・教科

・２年生・全教科（特に、英語科と数学科）
生徒の理解の状況に差が出やすい学年であるため。
研究の結果を２年間に渡ってみることができる学年であるため。
全教職員で取り組む研究にするため。

(2)　年次ごとの計画

平成15年度	○　テーマ 教科における学習（認知）スタイルごとの特徴から個に応じた授業の検討をする ○　研究の見通し（仮説） 学習（認知）スタイルに応じた指導と評価の工夫を行えば学力は向上するであろう ○　研究の内容・方法 ・実践研究計画立案 ・実践研究体制の整備 ・学習（認知）スタイルについての研修 ・ＡＡＩ、ＣＡＩの実施（２年生） ・他校の授業公開への参加 ・学習スタイルに応じた授業の検討 ・授業公開

平成16年度	○　テーマ 学習（認知）スタイルに応じた授業の実践と評価 ○　研究の見通し 学習（認知）スタイルに応じた指導と評価の工夫を行えば学力は向上するであろう ○　研究の内容・方法 ・１年次の研究成果や課題を踏まえた実践の修正および実践研究内容、方法等の焦点化や拡充

	・２年次の実践研究計画の立案 ・実践研究体制の修正 ・実践研究内容、方法の年間計画の見直し ・年間指導計画の見直し ・「確かな学力」の向上を中心とした学校全体計画の作成 ・実践研究内容の効果的な実施のための教育課程の見直しと工夫 ・「確かな学力」の向上のための環境整備 ・生徒の実態調査等の実施 ・実践研究推進 ・実践研究の公開、成果の普及・推進 ・フロンティアスクール間の実践の相互参観 ・実践研究の評価方法の見直しとより適切な評価の工夫

(3)　研究推進体制

校長－ 教頭－ 職員会議－ 研究部－ 教科部（実践研究、評価）

Ⅲ　平成１５年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

○ＡＡＩとＣＲＴを実施し、５教科の各観点について認知タイプごと平均値の差の検定を行った。結果は次の通りである。

	国　語						社　会				
	関心意欲態度	話す聞く能力	書く能力	読む能力	知識理解技能	５段評定	関心意欲態度	思考判断	技能表現	知識理解	５段評定
ア	○	-	-	-	-	-	-	-	○	-	△
イ	○	-	-	-	○	○	○	-	-	-	△
ウ	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○

	数　学					理　科					英　語				
	関心意欲態度	考え方	表現処理	知識理解	５段評定	関心意欲態度	科学的な思考	技能表現	知識理解	５段評定	関心意欲態度	表現の能力	理解の能力	知識理解	５段評定
ア	-	-	○	△	○	-	○	○	○	○	-	○	○	△	○
イ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	-	○
ウ	○	-	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○

※ア（熟慮型と中間型の平均値の差）、イ（衝動型と中間型の平均値の差）、ウ（熟慮型と衝動型の平均値の差）
　○…５％で有意差あり、△…１０％で有意差あり

以上の結果より、因果関係は明確ではないが学力差の一因として学習スタイルのうち、熟慮型と衝動型の特質が学習に影響しているのではないかと考えられる。それらの特質に応じた指導方法等の工夫をしていくと、学力を高めていくことができるのではないかという発想から各教科で、単元ごとに熟慮型と衝動型の特質をあげ、それぞれに応じた指導方法を検討し実践を開始した。各教科の話し合いは、内容ごとにいろいろな指導方法のアイディアを出し合うことができ、互いによい研修になった。

まだ実践して間もない段階であるが、数学科において少人数指導を、２年生で熟慮型と中間型のグループ、衝動型と中間型のグループに分けて行った。図形の単元で特に衝動型が多いグループでは、生徒の問題理解の段階に作図など丁寧に行う指導を行い、生徒の自己評価による調査を行った。その結果、十分とは言えないが、両方のグループで「問題の内容がよくわかった」、衝動型が多いグループで「問題解決が自分の力でできた」と答え

た生徒が多かった。今後もこの取り組みを継続していきたい。
　また、全教科で取り組み、職員会議等で情報交換を行うことで、他教科ではどのような実践が行われているか知り、担当教科の取り組みの参考にできたこと、今後の課題を明確にすることができたことも大きな成果と言える。

２．今後の課題

・各型に応じた授業を一つの単元で１回しか実施できず、様々な工夫を試みられない、その試みが適当であるかどうか評価する客観的な方法が明確でない、様々な状況があり変数が多すぎる等の問題点があるが、次年度も継続してできるだけ適切な評価を行い、データを集めていきたい。
・今年度と次年度の実践結果の評価の方法は、計画では次年度末にＣＡＩを実施し、各型の抽出生徒について今年度実施した結果と比較する予定である。その適切な統計的な処理方法を研究していきたい。

Ⅳ　学力把握のための学校としての取組

・ＡＡＩとＣＲＴを平成１５年６月に実施した。ＡＡＩは生徒の学習状況を把握し学級指導等に生かすため、中でも本校の研究テーマに関わる学習スタイルを把握するためであり、ＣＲＴは学習の到達度を把握するためである。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

〇授業研究会
・日時　平成１６年２月１８日　１４．００～
・場所　出雲市立第二中学校
・対象　出雲教育事務所管内中学校および管内フロンティア指定小学校
〇研究成果普及のためのＨＰ作成の予定

◇　次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】　☑ １５年度からの新規校　□ １４年度からの継続校

【学校規模】　□３学級以下　□４～６学級　□７～９学級　□ １０～１２学級　□１３～１５学級　☑ １６学級以上

【指導体制】　☑ 少人数指導　☑ Ｔ．Ｔによる指導　□ その他

【研究教科】　□ 国語　□ 社会　☑ 数学　□ 理科　☑ 外国語　□ 音楽　□ 美術　□ 技術・家庭　□ 保健体育　□ その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　☑有　□無